

えひめ薬学生NEWS



薬学生が実習に来ました!



3/1(木)薬学生2名(神戸学院大学4年生、安田女子大学3年生)が実習に来ました。午前中は若水ハロー薬局で、処方箋が届いてからの流れ・調剤・薬帯の記入を学びました。処方箋の見方では、「薬から予測される病名は？」との質問にバッチリ正解！また、服薬指導を見学しました。薬の説明の後、病状の変化はないかを聞きながら、「痛み止めは残っています」「先日、歯が抜けて歯医者に行ったんですよ」など、患者さんの声に耳を傾けました。残薬調整の必要性や歯が抜けた原因が薬の副作用の一つの可能性があり、医師に伝える役割があることを学び、患者さんとの会話の大切さ、気づくことの大事さが理解できたように思います。



在宅訪問に同行しました。80才代のご夫婦で認知症の為、薬の管理ができなくて訪問をはじめた経過を聞き、ご自宅に訪問。台所は片付けができておらず、至る所に物が山積み状態に学生は驚きながらも部屋の中へ…。食器棚にかけてあるお薬カレンダーで薬の管理の様子を見る事ができました。現状から服用できていない状態が分かり、きちんと服用する為にはどうしたらいいかを学生さんにも問いかけながら次の改善策を家族と相談しました。

はじめての在宅訪問で、生活背景を目の当たりにし、なぜ薬が飲めていないのかを考える機会になったと思います。また、在宅訪問は薬剤師の他に医師・看護師・ヘルパーなどとの連携が必要であることを知りました。

午後からは、協立病院の薬剤科で実習をしました。入院患者さんの持参薬を調べ、麻薬や毒薬は法規に基づいて管理・記載されている説明を受けました。また、麻薬処方箋と一般処方箋の違いを現物で説明。劇薬の取り扱いのルールなど、「教科書で見ても覚えるより実物を見るとインパクトに残るよ。試験にも出るよ」とアドバイスしてもらいました。

また、退院時服薬指導にも同行、家族から薬の粉碎について相談を受けている様子を見学することができました。粉碎可否の知識の必要性や薬を飲みやすくする為に家族と一緒に考えている薬剤師の姿が印象に残りました。



<学生の感想>

- ・服薬指導では、患者さんの話から服薬状況や生活のことなどをどれだけ聞き出せるかが重要だと思いました。
- ・訪問薬剤師のイメージがなかったので、今回は素晴らしい体験ができた。
- ・CBTやOSCE対策などで学んだことが実際の現場で体験してこういうことだったのか!と知識が繋がりました。

